

チャノキイロアザミウマの果実被害状況: C) 庵原

(各処理区3樹×50果調査): 摘果は夏は実施せず、秋に多少 **茶園に隣接**

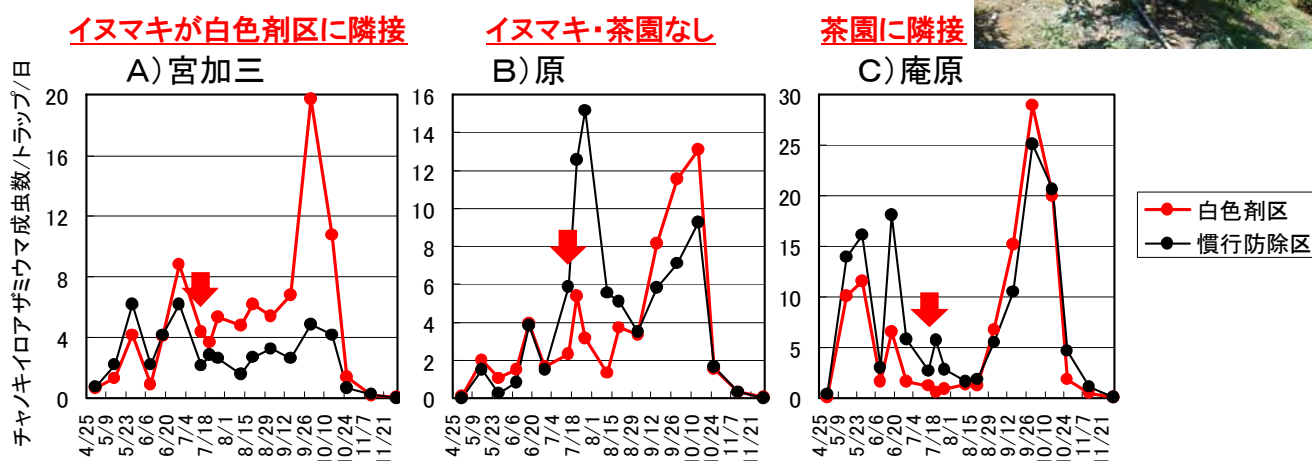
処理区	9月8日 (白色剤散布55日後)				11月16日 (白色剤散布4ヶ月後)	
	果梗部		果頂部(前期)		果頂部(前期)	
	被害 果率%	被害度	被害 果率%	被害度	被害 果率%	被害度
白色剤区	12.7	2.1	12.0	2.0	28.0	4.7
慣行防除区	20.0	3.6	23.3	3.9	42.0	7.0

白色剤散布日(7月15日)から11月16日までの慣行防除区でのチャノキイロ対象殺虫剤の散布実績
8月4日アセタンプリドSL液剤3000倍、9月3日ジノテフラン顆粒水溶剤2000倍



9月8日では、被害は白色剤区でやや少なく、
11月16日も、被害は白色剤区でやや少ない(果梗部被害と同傾向)
→白色剤の防除効果は、慣行殺虫剤散布の2回分とほぼ同程

チャノキイロアザミウマの樹内 粘着トラップにおける捕獲状況



第1図 チャノキイロアザミウマ成虫のトラップ捕獲数の推移
赤矢印は白色剤(25倍)散布日(7月15日)を示す

原と庵原では、白色剤散布区でアザミウマ捕獲数が減少。
→1ヶ月~1ヶ月半の間、発生密度抑制

H21年度の結果

炭酸カルシウム微粉末剤(白色剤)
のチャノキイロアザミウマに対する
被害抑制効果は、**3ほ場中2ほ場で**
化学殺虫剤散布2回分とほぼ同等
(1ヶ月～1ヶ月半、寄生抑制)
ただし、寄主植物イヌマキが近いと×？

17

炭酸カルシウム微粉末剤(白色剤)
の樹体散布が
収穫果実の品質に及ぼす影響

18



収穫果実の評価

12月16日

JALしみず共選果場

光センサー選果機で判定

各ほ場における収穫果実の等級(各果実の割合%)

(各処理区3樹調査):家庭内選果はしていない

調査ほ場	処理区	秀	秀＋優	秀＋優＋良
A) 宮加三	白色剤区	9.6	55.9	86.7
	慣行防除区	5.7	48.2	84.6
B) 原	白色剤区	23.0	67.2	87.2
	慣行防除区	22.1	68.8	87.9
C) 庵原	白色剤区	52.7	88.2	96.8
	慣行防除区	31.1	80.6	94.8

12月16日にJALしみず共選場の光センサー選果機を用いて
果実の糖度、酸度、果皮色、傷、汚れ等に基づき総合的に判定
→白色剤区と慣行防除区で果実等級割合に差はなかった

各ほ場における収穫果実の糖度・酸濃度(各果実の割合%)

(各処理区3樹調査):家庭内選果はしていない

調査ほ場	処理区	糖度		クエン酸濃度
		12度以上	14度以上	1%未満
A)宮加三	白色剤区	63.5	0.3	85.3
	慣行防除区	66.1	2.4	88.6
B)原	白色剤区	93.7	8.0	90.7
	慣行防除区	91.6	11.3	97.9
C)庵原	白色剤区	99.5	75.2	68.7
	慣行防除区	98.8	49.4	87.7

12月16日にJAしみず共選場の光センサー選果機を用いて
果実の糖度、クエン酸濃度を測定

→白色剤区と慣行防除区で果実の糖度・酸濃度に差はなかった

H21年度の結果

炭酸カルシウム微粉末剤(白色剤)

の樹体散布は、

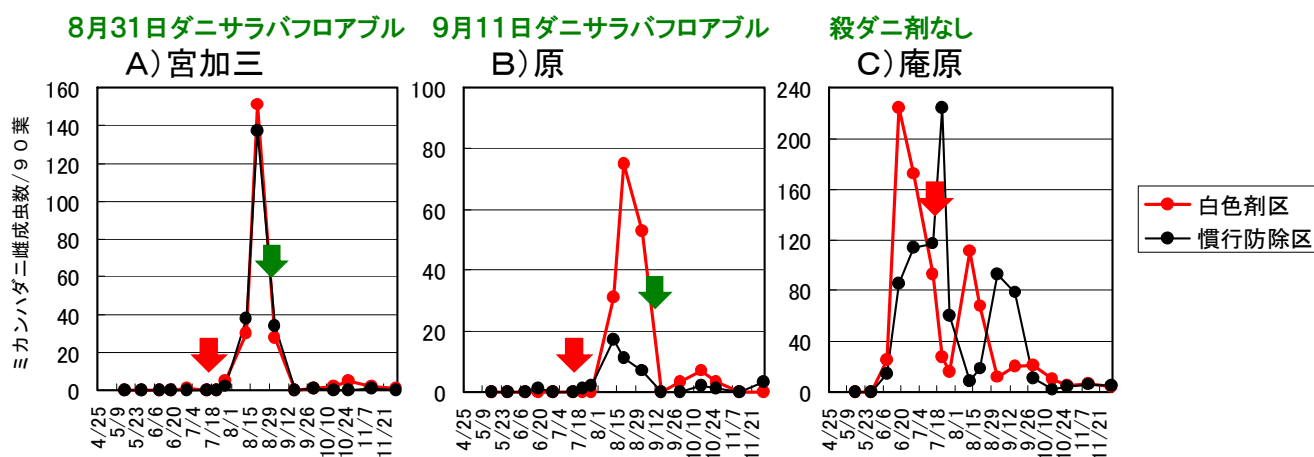
収穫果実の等級、糖度及びクエン酸

濃度には影響しない

炭酸カルシウム微粉末剤(白色剤) ミカンハダニ及びその天敵昆虫の 発生に及ぼす影響

23

ミカン葉上における ミカンハダニの発生状況

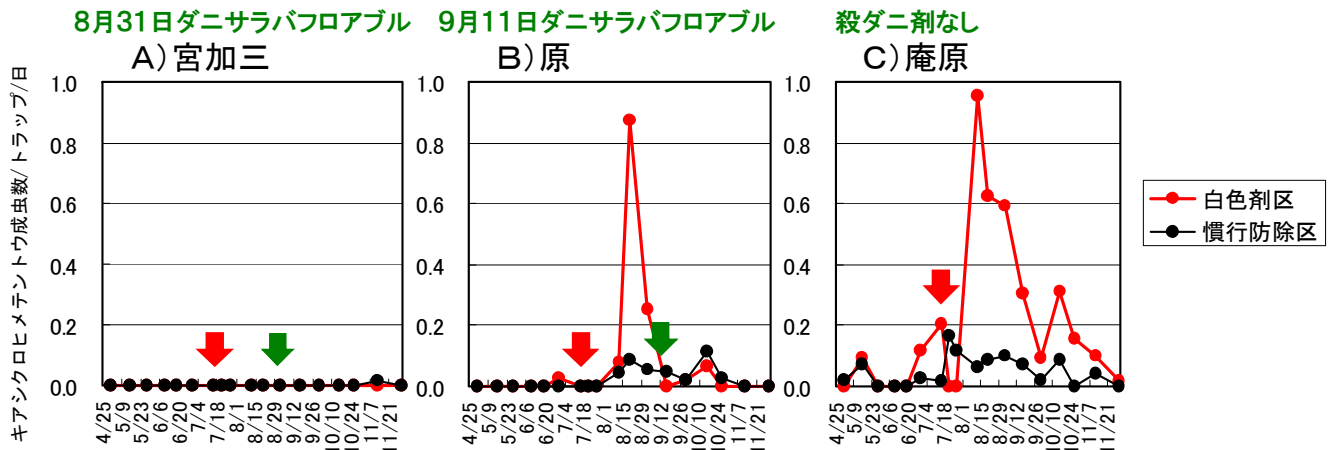


第2図 ミカンハダニ雌成虫の葉上寄生数の推移

赤矢印は白色剤(25倍)散布日(7月15日)を示す、緑矢印は殺ダニ剤散布日を示す

8月に入り、ミカンハダニの発生が急増したが、9月には減少。
また、白色剤散布でハダニが増えるとは必ずしも言えない？

キアシクロヒメテントウ成虫の 粘着トラップにおける捕獲状況



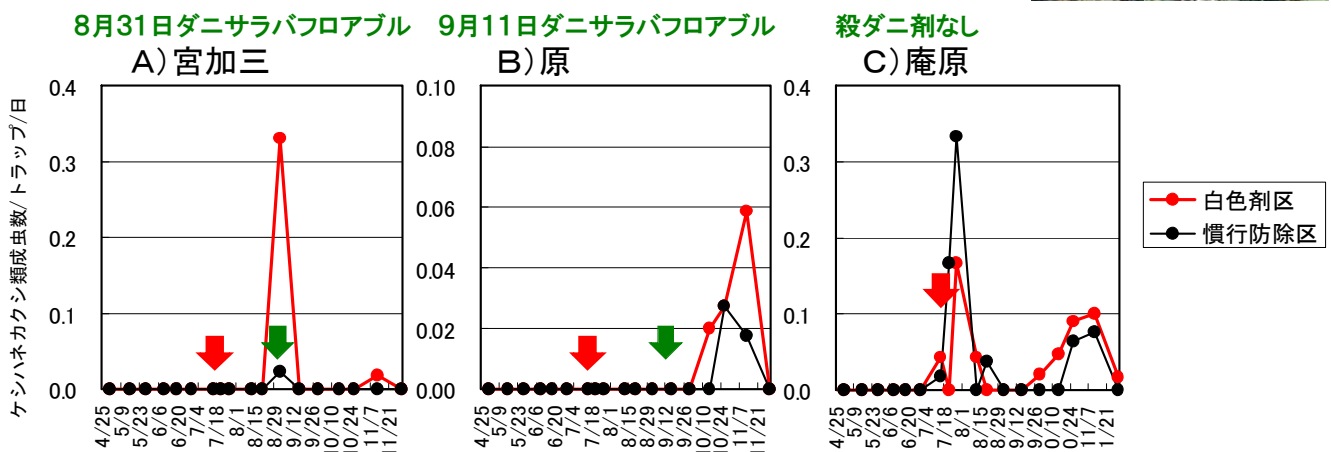
第3図 キアシクロヒメテントウ成虫のトラップ捕獲数の推移

赤矢印は白色剤(25倍)散布日(7月15日)を示す、緑矢印は殺ダニ剤散布日を示す

白色剤散布区では、キアシクロヒメテントウが増加・温存。
庵原ではハダニ減少に貢献、原でも？→ハダニ心配無用

25

ケシハネカクシ類成虫の 粘着トラップにおける捕獲状況



第4図 ケシハネカクシ類成虫のトラップ捕獲数の推移

赤矢印は白色剤(25倍)散布日(7月15日)を示す、緑矢印は殺ダニ剤散布日を示す

白色剤散布区のケシハネカクシ類の発生は、庵原では
慣行防除区と大差はない。宮加三では増加→温存された？

6

炭酸カルシウム微粉末剤(白色剤)

の樹体散布は、

ミカンハダニの天敵・キアシクロヒメ

テントウとケシハネカクシ類の発生を

温存? → ハダニ密度抑制に貢献?

27

白色剤の7月樹体散布:まとめ

- 🍊 3ほ場中2ほ場で、チャノキイロアザミウマに対する被害抑制効果を認めた(イヌマキ隣接×)
→ 慣行殺虫剤2回分とほぼ同等の防除効果
- 🍊 果実品質には影響なし(白色汚れ等問題なし)
- 🍊 ミカンハダニの発生を助長しない?
(ハダニが増えても、すぐに、土着天敵の
キアシクロヒメテントウ、ハネカクシ類が増加し
ハダニ密度を抑制する?)

28

白色剤の樹体散布：今後の課題

- 🍊 2ヶ年継続調査(樹体生育への影響も評価)
- 🍊 ハダニ以外の害虫(カイガラムシなど)とその天敵(寄生蜂など)の発生への影響
- 🍊 チャノキイロアザミウマ激発地での防除効果
- 🍊 散布時期(6月、8月)・回数、濃度の検討
- 🍊 散布部位：樹冠内部の散布は不要か？
- 🍊 消費者の理解(白色剤と化学農薬の違い)

29

ご静聴いただき、ありがとうございました。



白色剤の早期の農薬登録を待っています！